

(一般質問)

質問日	令和 7 年 6 月 9 日 (月)			質問方式	分割方式		
質問順位	4	会派名	自由民主党浜松	議席番号	17	氏名	露木 里江子
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 くらしや経済活動と多様な自然環境との共生について	本年 4 月からスタートした第 3 次浜松市環境基本計画は、2045 年の理想の姿を「脱炭素化と循環型社会の形成が進展し、豊かなくらしや持続的な経済活動と多様な自然環境が共生するまち」としている。 国際的には、2020 年を基準年として 2030 年までに生物多様性の損失を反転させるとしたネイチャーポジティブの考え方が示され、2030 年までに、陸と海の 30% 以上を健全な生態系として効果的に保存することを目指す「30 by 30 (サーティ・バイ・サーティ) 目標」が掲げられており、こうした社会情勢の変化に対応したものが第 3 次浜松市環境基本計画であると認識している。 そこで、第 3 次浜松市環境基本計画に関連して、本市の考えや取組について、以下伺う。 (1) くらしや社会経済活動と多様な自然環境が共生した姿は、国土縮図型といえる本市の大きな魅力となると考える。 一方、経済活動の推進と自然環境の保全が両立しない事案もあると考えられる。 これらも踏まえ、理想の姿の実現のための市長の考えを伺う。 (2) 市民が環境問題の現状や影響を理解し、行動変容につなげるための環境教育が必要であると考ええる。 本市の環境教育の現状と課題、今後の展望について伺う。 (3) 環境保全型農業直接支払交付金による有機農業の取組促進は、農産物の高付加価値化につながると考える。 環境に配慮した農業の現状と今後の取組について伺う。 (4) 今年度から、カーボンニュートラル推進事業本部が産業部に移管され、新たにカーボンニュートラル推進課として事業を進めている。産業界全体のカーボンニュートラルをどう推進していくのか伺う。						中野市長
2 多様な人材の雇用について	2020 年に関係省庁・地方公共団体・関係団体・経済界等により、「農福連携等応援コンソーシアム」が発足した。農業と福祉の「農福連携」であるが、本市ではさらに誰もが参加できるという意味で「ユニバーサル農業」のコンソーシアムである「ユニバーサル農業研究会」が発足し、農業、福祉、産業が産官学で連携して進めてきた。この研究会の成果を共有し、障害者雇用に限らず、						上田環境部長
							下位農林水産担当部長
							鈴木カーボンニュートラル推進担当部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	雇用の多様化に対応することが重要だと考える。 そこで、以下伺う。 (1) 本年 1 月に開催された「ユニバーサル農業20周年記念シンポジウム i n 浜松」の成果と今後の展開を伺う。 (2) 障害のある人が自立した生活を送るためには就労が重要であり、適性に応じた就労を選択できることが必要である。就労先として、農業分野で障害のある人が活躍できるよう、農福連携を進めるための取組について伺う。 (3) 今後、増加する外国人、高齢者など、多様な人材の雇用が進み、企業も努力が必要であると考え。本市の企業に対する支援策について伺う。	下位農林水産担当部長 小松健康福祉部長 北嶋産業部長
3 スタートアップ推進施策について	本市では、2020年 2 月に浜松市スタートアップ戦略を策定し、ファンドサポート事業を中心に、積極的にスタートアップ施策に取り組んできたと認識している。 しかし、本年度から静岡県が同様の事業に取り組み、県下全域を対象とした事業を展開する。本市が先駆的に取り組んできた優位性を今後さらに活かしていくには、これまでの実績から課題を整理し、いち早く次のステージに向けて新たな施策に取り組む必要があると考える。 そこで、以下伺う。 (1) これまでの浜松市スタートアップ戦略に係る成果と課題について伺う。 (2) 本年 4 月にまとめた第 2 期浜松市スタートアップ戦略の方針について伺う。 (3) ファンドサポート事業の今後のあり方について伺う。	川路スタートアップ推進担当部長
4 防犯カメラの設置について	通学路をはじめとして、地域の安全性を高め、犯罪の抑止と早期解決を図るために、防犯カメラの効果は大きいと考えられる。 実際の事件発生時にも映像が証拠として活用され、捜査の迅速化に寄与した事例も多い。 そのため、地域における自主的な防犯活動として、防犯カメラを設置しようとする自治会を支援する防犯カメラ設置事業費補助金は意義あるものと考え。設置要望の声を多く聞くが、令和 4 年度から始まったこの事業による昨年度の設置は11件、22台にとどまっている。 その要因と、適切な設置に向けた支援の今後の取組を伺う。	水谷市民部長
5 避難所運営訓練について	南海トラフ地震への備えとして、平時から避難所運営訓練が重要であるが、地域差はあるものの、避難所の運営主体は避難者である地域住民であるという認識が低いと感じる。避難所運営のあり方は、浜松市避難所運営	清水危機管理監

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	マニュアルにまとめられているが、避難所運営訓練によって、地域ごとの課題を確認し合う必要があると考える。 そこで、避難所運営訓練を避難所ごとに行っていく必要があると考えるが、その実績と課題、今後の取組について伺う。	
6 浜松市博物館の将来像について	浜松市博物館は、2024年3月にリニューアルの基本構想を作成した。本市は、多様な自然環境を舞台に特徴的な生活文化をはぐくみ、日本史上にも重要な歴史を刻んできた。「つなぐ・つながる・つなげる博物館」の基本理念にあるように、博物館は、ヒト・モノ・コトがつながり、そして未来につなぐ場であり、発信する場として期待している。 そこで、以下伺う。 (1) 浜松市博物館がより多くの方に利用されるための方針を伺う。 (2) シビックプライドの醸成のため、博物館が担う役割と事業について伺う。	嶋野文化振興 担当部長